

フットサルにおける個人参加型という活動形態に関する研究

松本 健吾 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 金森 雅夫

キーワード : フットサル 個人参加型 普及

1. 緒言

近年急速に普及しているフットサルであるが、日本では、民間フットサル施設を拠点としてその人気は拡大してきた。2003年には、民間フットサル施設が日本サッカー協会と協力をしながらフットサルを普及させることを目的に、日本フットサル施設連盟が発足した。

フットサルは、チームスポーツでありながら、一人からでも参加できる「個人参加型」という特有の活動形態がある。多くの民間フットサル施設でこの活動形態が用いられており、一般的に「個人参加型フットサル」と呼ばれている。個人参加型とは、施設側によってあらかじめ設定された曜日・時刻において参加者を募り、当日集まった不特定のメンバーによって指導者からのレッスンを受けたり、即席でチームを構成しゲームを行うといった内容である。筆者はフットサル特有であるこの活動形態が、フットサルの普及を支えていると考えた。

そこで本研究では、フットサルにおける個人参加型という活動形態の実態を明らかにし、今後更なるフットサルの普及を目指す上での、個人参加型という活動形態の在り方について検討することを目的とした。

2. 研究方法

(1) 民間フットサル施設における個人参加型の活動形態の統計調査

(2) 「個人参加型フットサル」参加者へのアンケート調査

エスペリオ京都フットサルクラブ（日本フットサル施設連盟及び関西フットサル施設連盟加盟施設）で行われた「個人参加型フットサル」への参加者に対してアンケート調査を行い、参加者のフットサルへの関わり方や意識について分析した。（回収数:44部）

3. 結果と考察

統計調査より、関西フットサル施設連盟に加盟している48の民間フットサル施設のうち、75%の施設で個人参加型の活動形態が確認でき、広く一般的に行われていることが明らかになった。

アンケート調査より、個人参加型の活動形態は、チーム所属の有無に関わらず、フットサルが気軽にできる活動形態、少人数のチームに所属していてもチームとしてトレーニングができる活動形態、チームに所属するためのきっかけになる活動形態であることが明らかになった。

4. まとめ

従来のサッカーに見られたように、団体のチームスポーツは、チームに所属していないと試合やトレーニングができないという競技性の特徴があった。フットサルにおける個人参加型という活動形態は、それを打開する画期的な活動形態であるといえる。

しかし、今後更なるフットサルの普及を考えるならば、個人参加型という活動形態を提供している民間フットサル施設が創意工夫をし、参加者に対してチームへの所属を促したり、高度な指導ができるような、よりよい環境を作り出していくことが必要である。それらを、民間フットサル施設と日本サッカー協会によって上手く連携を取りながら行うことができれば、フットサルの更なる普及が期待できる。

参考文献

古本 智大・入口 豊・井上 功一・中野 尊志・大西 史晃 (2010): 「フットサル普及の現状と展望(Ⅰ)」, 大阪教育大学紀要 第IV部門 教育科学, 第58巻第2号, pp.35-52